

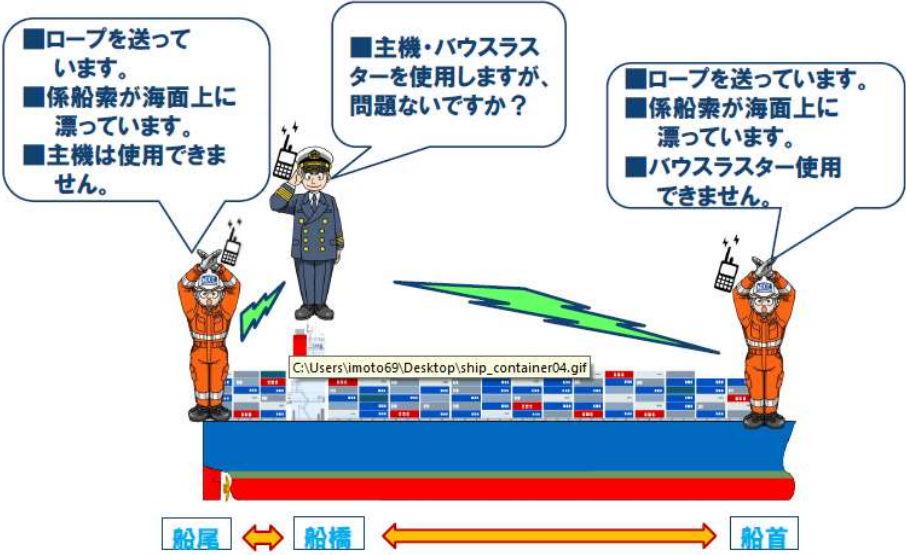


業 種	海事
取組分野	安全重点施策 情報伝達及びコミュニケーションの確保
テ ー マ	本船プロペラ等への係留索巻き込み事故防止対策
取組の狙い	多発する本船プロペラ等への係留索巻き込み事故について、その背景要因を分析し、船員が具体的に何を実践すればいいか明確化することで、事故の再発防止を図る取組
具体的内容	<p>1. 取組を実施するに至った経緯</p> <p>井本商運株式会社では、海上に浮遊する係留索がプロペラ等に巻き込む事故の再発防止に向け、事故の背景要因を分析した結果、船員間での的確なコミュニケーションが行われていないことに課題があると捉え、全船員にトランシーバーを配布し、必要な確認会話や配置を取り決めた手順書を作成し、ハード・ソフト両面による事故の再発防止に向けた取組を実施した。</p> <p>2. 再発防止に向けた安全対策の取組</p> <p>①船橋（船長）と船首・船尾（航海士）間の状況報告強化。 ②船内マイクに追加して、トランシーバーを配布して使用させた。 ③係留索が海面に漂っている状態での主機、スラスターの使用禁止。 ④係留索を複数本取る場合でも、1本ずつ確実に繰り出す。 ⑤従来、船首配置は一航士・二航士、船尾配置は機関長・一機士であったが、離着岸作業に慣れている航海士を船首及び船尾に配置し、船首は一航士・一機士、船尾配置は機関長・二航士に変更した。</p> <p>3. 特に重視したリスクとその対策</p> <p>「伝わっていない」ことをリスクとして捉え、ハード・ソフト両面からの対策を実施した。</p> <p>①トランシーバーを購入し、全船員に配付するとともに、離着岸作業の熟練度に応じた船員の配置に変更</p> <div style="text-align: center;">  <p>船橋（ウイング）：船長</p> <p>船首：一航士、一機士</p> <p>船尾：機関長、二航士</p> </div>

②係留策巻き込み時における必要な確認会話を取り決め、船員に実践してもらうことで、情報伝達における齟齬を防止

Imoto Lines

ロープ巻き込み事故防止策(1) 作動してはならないとき 



■ロープを送っています。

■係船索が海面上に漂っています。

■主機は使用できません。

■主機・ハウスラスターを使用しますが、問題ないですか？

■ロープを送っています。

■係船索が海面上に漂っています。


■ハウスラスター使用できません。

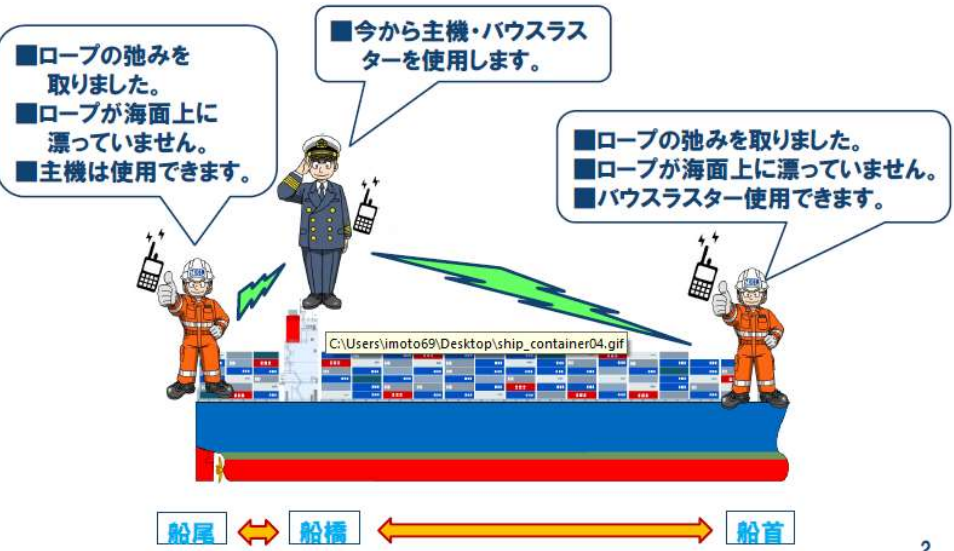
C:\Users\imoto69\Desktop\ship_container04.gif

船尾 ← 船橋 → 船首

1
www.imotoline.co.jp

Imoto Lines

ロープ巻き込み事故防止策(2) 作動してもいい状態 



■ロープの弛みを取りました。

■ロープが海面上に漂っていません。

■主機は使用できます。

■今から主機・ハウスラスターを使用します。

■ロープの弛みを取りました。

■ロープが海面上に漂っていません。

■ハウスラスター使用できます。

C:\Users\imoto69\Desktop\ship_container04.gif

船尾 ← 船橋 → 船首

2
www.imotoline.co.jp

取組の効果	<p>ここ数年間の係留策巻き込み事故は、1～2件に減少する等、取組が有効に機能していると推測される。</p> <p>2013年度：3件 2014年度：6件 2015年度：3件 2016年度：3件</p> <p>2017年度：1件 2018年度：2件 2019年度：1件 2020年度：1件</p>
事業者名	<p>井本商運株式会社 安全監査室</p> <p>(連絡先：078-322-1633)</p>